

延覽
談

深

淵

帖

卷

五

安永八年



18
2132
8

8

手

廻覧奇談深淵情

祭藤

合

寺大
丹笑

夫^{それ}奇^き怪^うを^を聖^{せい}人^{にん}と^と言^いぶ^はる^ふ也^{なり}。神^{かみ}

の成^{なり}よ^うと^とあ^らる^る是^{こゝ}神^{かみ}力^{ちから}乃^{すなは}成^{なり}と^とこ^ろ。

是^{こゝ}力^{ちから}若^し異^い物^{ぶつ}お^のれ^ると^とあ^らる^るを

の^をを^をり^て。あ^れを^を異^い物^{ぶつ}と^とい^ふが

と^とい^ふ奇^き怪^うと^とい^ふ。是^{こゝ}を^を奇^き怪^うと^とい^ふ。

藤原

24

○

バ。物ぶつ比ひ各かく奇き怪かいのの。且かつし。多おほ少すく物ぶつ皆みな
 奇き怪かいろああずんんバ。何なに一ひとととしてして奇き
 怪かいとするする小こ志しののびびぎぎももやや。奇きああ
 ああずずしくく奇きああしくく奇きろろ
 ああずずるるをを。童どう子し乃なり。一ひと笑わら大おほとと南なん寸すん
 而を已こ。

楓某し



陵

巳亥

望春旦

廻覽奇談し心底

月令云鷹化しく鳩と南留と。ありぬ毛。
化しく。鰻鱺と南るハ童子の能所口
あり。妬人能蛇り。化す。妬人能蛇小
七すといは所。以便金能化。使欲能金
化也。字金于世焉。慾于世焉。慾于世焉。
合于世焉。是金能化能慶す何則美
女。悪女と唯乙皮之隔。聖路おとる

事。紅紗。玉釵。羅綺。あり。
三の百枝。叢の杯。ふくん。美人と不
變。君子と好休。甚す。是合慶す。人心
是金。是能變す。嗚呼。變化。人
間。一生。變化。一。夢。化者。字人。人。人。人。
化者。う。ナ。ン。あ。く。見。は。ら。と。云。爾。

深淵情し胸中

流れ三のりる時ハ橋多しいじかく南利。
こつぶる時ハ長くやろ其也たんの鼻毛を
集て。細める事。精密と言せ其も。そ
なくハ不能得を魚然ハ君子ハ釣
て細まらずさ如也況見是驚すれ也。寤
をさくくぶるおひておや今世往て。
釣するとの多し。こころおされを釣す

とつとつと。凡釣するは法し功し上なり
術。湖の上子独好れば積年をいさふ
と雖も小智ハ大智よりおまをす其釣が
とくくして釣るも其釣るを笑面
おるもハ夫釣るも甚
や乎多罪。

凡例

春夜談于蘭皋堂

常白皋堂清矣 清矣談于一瓢 凡

其二

清矣旅中逢異人

清矣八平安島 乃すめる人

其三 至大尾

河峇于鶴跡樓

鶴跡樓ハ羅廓島 乃樓各

羅廓島之記

唐土[○]巫山[○]あり雲髻雪肌のすめる
吾朝[○]分北[○]の方[○]十里[○]を行て
二里[○]を隔て[○]世界[○]あり其[○]名[○]を羅廓島[○]
とす蓋[○]天女[○]の才[○]也[○]為[○]左[○]右[○]小[○]三里[○]乃
海[○]を南[○]の[○]左[○]の[○]地[○]を[○]列[○]す亭[○]
たる[○]金[○]門[○]其[○]志[○]を[○]面[○]小[○]ぬ[○]ん[○]て[○]
艶[○]たる[○]少年[○]世[○]を[○]ひ[○]く[○]す[○]す[○]其[○]の

花の観ハゆふ夕の鐘ノカクむ色。
秋の月弦おもかけハ閨中の明鏡小
忌はずとあや蛾眉あつふあひて。時
芥子法新粧をナリトて二個乃童子
をさ毛ふし其廓中小道遙す暮小
楼ヲ帰て珍書をたのしみあつふ
文をゆづりて。平安島乃公
子をもす係くし云ん。

平安島之記

羅廓より西の方二里ノ當て。この島を
家々毎ノ富んで屋をうる所。海鳥を
うるますすのく。あつるや各けり平安島
といふ百子執皆たりて童子す。さふひ
あし法あふ手洗口おき。伽羅の油
多し。みかりかへみす。目ハ離世が
明を求め耳ハ師度が聰をばん。

長しと為通人矣。夫藍藍ありて。
 青く。良馬ハ木を急ぐんてすむ。通人
 也。あゝ守んバ。騏驎の壁も見事な
 たり。見ず。燈臺のたゞさる。あゝ守んバ。
 鳳凰のたゞさる。あゝ守んバ。子
 子のたゞさる。あゝ守んバ。あゝ守んバ。
 道より立ちり有。傾城より傾實ある
 み。ハ。若ハ。大端ハ。五と云く。

○黒主云撰次する。度の中濁を
 以りて。遂に其清小至る。故小道
 入。やまじして。車は。しむ。小多し。

○降也云世書。説何の年中。小あ
 里。互を志。し。然。石。説。と。為
 故。さ。く。多。見。ん。だ。川。小。多。し。

○不入云降也。所謂世書。多ハ
 疑。説。あり。故。長。を。き。う。み。し。の。多
 を。補。て。降。也。世。註。す。予。又。小。評。す

廻覧奇談深淵情

春夜談于蘭皋堂 詩

夜も更けはる鐘の声燈火も湯釜も乃
 りもろろ神あるがごとく待身もそ申あを
 あうりる

そりり



静 せい ぶあうりぐえんもしくもた神 かみ 清 せい は 閑

情 せい なが妙 めい サ一 時 小 服 せうぶく いた い た た ひ 祢 ね 清 せい 本 ほん 小 静 せうせい

風 ふう さん さん たり たり かり かり ぬ ぬ を を ぞ ぞ ぐ ぐ ぐ ぐ を を 静 せい さ さ す す の の か か く く と と じ じ

釜のふくまをさう
あまほぼせうをうた一茶とつハ世間か
つなふ茶ういきやしたか好ふをまきき地
清テ一北の方十万里を先ッ行のさせれく
二里ほぼちとつ島があつておまふぶくぶ
天人があつてけるこつふるたがアおりのな説ぶ
神へ清さんたあつた一ふが又百りび百知ぶま
清ぶあも十美二里さ記の事たぐも變た志
か西方へ楚の位もちババく木の世界がある
とほくくさ清がいつるぶくもまれ神く静イへく

廻國カハの事さした一が己の心時あつちの方を
やせん清ひをすま目をつくくして静くこつくぶくつふ物
た静お前方お前书画茶の湯ぶの班ぶ
のといふおおをあのみなさるからあつちのつ
ちや上あーさッおひひく清笑一瓢ちのとをふ
しそあまうせなせくナ静ぶあも是をのりハ今
静風さんつめく見そく神静ある方サ一清矣

さうんがゆふさるあふじたししつぎとく清がうらも
りつふがかつてをきく秘トヤおひあそんた
静ナニせれハ若お世あふバにたしがあつては通
事の方へ手紙をあけやす清花あつちりハ
通詞がゆあつちりやあつちり秘ト静ハ天人の
らあふあつちり物と秘ト静何れかあつちりたるハ
びひりれた秘とくしと詞の後先がせとく
おひサアなんでも清矢さんのおをのめひでハ
天人ともあひがおあつちりやあつちり清りつと静

風さんハせじつとく天人よるあまへ小
まよひさあつちり一せとくをまやくるハ静色し
あをけものぐせんかあつちりのおあつちりやす清ト
静さしとあつちりしとあつちりせせんがあつちり
又つをあつちりせんさあつちりの天人多しと
ア号人の目であつちりハやつちり化者のりあ
おサニ人あつちりやあつちり静を天人小あつちり
れつちりちちやア親小あつちりのりあつちり
故郷ハ松かつちりつちり小あつちりしとあつちり
あつちり

伊ハ福くら静イ、あくお気ヶ付やしんぞれが
かんざんサぞれをさるくするをあらつちがあ
ろさゆてくる方がちりしふ知いのサ清それ
でも静風えんのぬおサアおをくさくさくさく
ワたさうちやアブルガ
静ナニおぬし一さひサアせおぬバ着イラおろ
ちもおひ強く先もかり強かるのサおれ
も三十をさあしておん辰々ソおの計を胸中
おめくしておさうでわくくみ折おなりあす

いよふふ事ハあざうやせんアあひ死
小位^いす上の中サぞあもあれを何かりハ
夫人の心をひあとのサおんめるハおく
あくきつをりおれサ物ぞうあおれハ
あたる心位^い気下あさおと先で
ぞんくさおまサ物サをりぞをずれる
さあおきうたんまサ清おふしう男の
まが小一がソリでひくぞくそを過
どのま^い一は紙箱を福ひてくおくソハ

モア心やすひる井たたりかんてはかなたふ
まろ天人のつりし事か耳おはひいていふ
ハミソシテぬくつりやもまたあざハ天人の
香がぬけやせんかほひ一ま香のほひもあまハ
け毛ろまハあやせん清あふゆまろつねる
よあせく静まぶおひサ今ふあひささし
うたろうぬころちまがとおろやす二人
あれハ静風さえめおそま眺の鐘がニク
鴉静しや夜があけるさあた静はんと

時たぎりた湯でいやはらまをナ清サ
かんじらりささかしてあゆ

評云相馬子おひしるあま辯を
そして此ノか便あつとまねてハハ

其二清笑ハ静風清一書をたると又一掃を
おそむくまをせます

説

巴巴ろ清を笑ハ北のうえとまろりる具つあつる
大が此が北面の極ろ黒黒ころのあせをあつ
あひミズ之の島ちうのの上衣同く下島の下衣もろく
汗ハぬれもあが風風をそよまおほま中うこのよ
こゑを白白おたりたらくさうりめんぢをんおまじ
りめんとくびあんハまがまぢ金あとろのあびあぢが

島をいかにちかづくてあらされるものハまら
羅廓島へ流れる方がイ、どうやらまら由志
よ〜〜ア、ア、

ワヤ、これ風を〜〜びく物〜

まらん取か〜お〜波〜

ふ〜〜波〜〜お〜いある舟カ〜

又ニニ〜〜舟カ〜ヤツリ舟カ〜

○降也云羅廓のそハ物物橋と海上二里有余
陸地ハ二里也毛旅の人々〜ハ〜海と
を行く〜

清 羅廓まぞやめて〜ん福〜房ハイ〜

おあかり〜清ア〜房 吉や〜エ〜

吉や〜〜モフ〜

のり〜〜船人面〜

吉をと〜〜ハ今鴨お〜

あ〜〜

房又〜〜清ア〜

只今〜〜

ひ〜〜は〜

のふさねをよめりてつけがりて吉今埋卓
 をかひるつゆいのでいやらやサアナツウリお前
 のまふ房ぢんぶをよめりて吉ロノ中 おれうゆめり
 やうぬがゆめりてやアれぬくもよめりて
 くるゆめりての銀をよめりてあゆめりて
 せう対ハまふあゆめりてやアりたふ房工
 きりてゆめりてゆめりて吉今火つらふ
 かきりてゆめりて目をあひてゆめりて
 房たれハエフ大おゆめりてせやゆめりて

清十二世んやゆめりてをトきんちやる房ハイゆめ
 ハみりてゆめりてゆめりてゆめりてゆめりて
 とちやゆめりてゆめりて吉サアゆめりて房
 おゆめりてゆめりて三橋くゆめりて清又ゆめ
 するゆめりてゆめりて吉ラットちやゆめりて房おあふ
 のゆめりてゆめりて吉サアゆめりてす清イヤど
 川あゆめりてゆめりて△ゆめりてをやひ吉やゆめりてハ
 ぞゆめりてゆめりて大ゆめりてゆめりてゆめりて
 巴ゆめりてゆめりて△向ゆめりて猪牙吉ゆめりてゆめりて
 出ゆめりてゆめりてゆめりて

めくもりをはなれてせやがれ先たれたう
かどつふのだくは人ほくめく吉おれう
ほくあめなア同くくが先おぬへてや
われ吉こきく風をりるやアかるや
ゆるゆる
遠きもの
○楓某云世海上あやしき物度
見れをいふごとく清矣が降国
あつざれはるあれをふるすたの吉
あつこくたの吉

吉モ
まくりやうた清まわりたの吉

おーびかろやうしゆ
清そろくきをるなを
あ入たふあきある
清たれハくいひぎた水で香料でしか
りー吉ハ清はりたふくしりてくん
吉ハりく清あう吉
とびあがる
あぬあう清アイはる小

其三
世章ハ清矣風味閑くして

墨水の流ハ平安島の東楊柳橋小
朝ハ八町堤ハ羅廓島の北金門小
通す。宜哉白髪ハ夕陽

清

黒あぶくをこぎし。鼠色の顔、縞
 卵の志は緑い川をる。青眼乃
 翠千眉桃色のとす。おろい。た。
 襦色ののあし。か。け。ハ。む。さ。ま。れ。霞小
 ちきる。總是老翁ハナリ。背を
 せ。ら。せ。狭骨ハナリ。腰をぬ。あ。す。
 既。リ。後。ハ。ソ。ろ。乃。門。ハ。夕。ぐ。れ。の。鐘。
 ち。さ。か。ち。く。さ。く。に。せ。し。
 清
 ちん。で。し。あ。の。あ。さ。ろ。の。ま。を。た。が。ト。あ。ろ。を。え。ま。

目印あはたはくモシ風味閑とヤスハがまろく
 房ハ清主人ノ房ハイおり。清日たし。静
 風さん。の。さ。し。ゆ。で。ま。ろ。した。房。ソ。ハ。の。ま。ナ。リ。井
 戸。あ。ら。く。し。し。ま。ま。と。ろ。房。お。茶。あ。を。ま。の。て。ま。ま。よ
 ハイ。房。サ。ア。し。ら。く。お。も。お。ら。ら。静。風。えん
 ハ。清。イ。ハ。お。も。お。で。ま。出。を。ま。け。て。ま。ま。お。も。ろ
 け。て。も。あ。し。ら。した。房。エ。お。お。お。ま。れ。が。ま。ろ。け
 ざ。り。清。静。風。を。し。も。ま。比。ハ。天。人。百。ん
 イ。あ。れ。ハ。モ。じ。ゆ。く。し。の。ま。の。ご。静。房。ハ。ア。

いゝおれせしよちり船かたおるハてせし
モフ大きおおるさうはした房サフお一ツ
清主先くおぬみくおどくみをとちりへイ清江
ゆきさうゆす房お前さんどどめんか清さど
めたうくまんのよいてゆす房へいノフク一里
さんお他々おおやさろノサ女おねサこた〜
さのち一里さんがおおやすのたう〜
したお〜おき声なとどかき清一里さん
〜ハ房が〜はと〜をすぶサヤおねハ

本とでいさうゆす清江ハさんおらうお〜
女あんあつをちりあやる清ソリヤアソくあ
んと此判のあ〜をまかお〜うちお
しむ糸うはうて酒が飲め神サヤおと〜え
清おねたりねち〜糸〜ヤおらあ
た福く房サの〜さあおらあるゆだんがな
ア〜せし〜おらあサ女おねサちあ
おらうかほおおねあ〜せやんあ〜
〜〜大きおら〜ん〜あ〜ち〜

た小くくはぶる由すのき清^清るはフウきれで
きよしたる房^房はふく清^清さためしき客の者^が
一里といやア志^志杯^杯之^之ニエヲやく主^主モおまう
きんのお名^名ハ清^清清^清矣^矣とい^いる主^主へを
あ^あく清^清矣^矣えん^{えん}清^清工^工主^主左^左右^右ふかありてハ
か^かあ^あく^くは^はあ^あり^り清^清工^工主^主左^左右^右ふかありてハ
杯^杯一^一女^女ぞ^ぞく^くら^らお^おの^のえん^{えん}ハ^ハお^おり^りヤ^ヤさ^さあ^あで
は^はあ^あり^り清^清矣^矣えん^{えん}ろ^ろお^おは^はい^い
め^めー^ーグ^グあ^ある^るく^くり^りえ^える^るニ^ニ人^人く^く清^清工^工主^主左^左右^右ふかありてハ

ア^アガ^ガあ^あき^きや^やう^うら^らな^なめ^めて^てきた^{きた}房^房ま^まぶ^ぶく^くた^たん^ん
あ^あき^きぶ^ぶろ^ろふ^ふら^らり^り清^清工^工主^主左^左右^右ふかありてハ
そ^そう^うも^も酒^酒の^のみ^みで^であ^あひ^ひく^く酒^酒宴^宴の^の向^向物^物それ
でも^{でも}此^此園^園一^一ち^ちを^をさ^され^れ清^清工^工主^主左^左右^右ふかありてハ
ま^また^たあ^あい^いく^くん^んが^がま^まは^はり^りま^ませ^せん^んく^くお^おれ^れで^で
あ^あう^うく^くち^ちひ^ひの^のま^まは^はり^り清^清工^工主^主左^左右^右ふかありてハ
あ^あれ^れ杯^杯く^くも^もい^いく^くあ^ある^るの^のい^いど^どあ^あで^では^はい^いづ^づら^ら
す^す清^清工^工主^主左^左右^右ふかありてハ
の^の哥^哥泉^泉天^天人^人と^と中^中清^清工^工主^主左^左右^右ふかありてハ
清^清工^工主^主左^左右^右ふかありてハ
泉^泉天^天人^人と^と中^中清^清工^工主^主左^左右^右ふかありてハ
清^清工^工主^主左^左右^右ふかありてハ
泉^泉天^天人^人と^と中^中清^清工^工主^主左^左右^右ふかありてハ

名たぐひのせはざりぬす清ぶらなねと
ますありちるあし主あれはくひらあのおい
天人と申す清ぶらちるあせいされねく
主あれでいちりあのれをまらう清ま
とふ天人のすみけととて天のる房
おつらんがよんちるひゆし形遠長え
主又くぞくのあ新すかねのりト行清ちんと
おりあたらあぶねく主アレガサおつではざりす
此らあへるありますそそくはア、ちりはす

仙人ハ山へすんでまらぬのそふしを
まていけるそやゆがすみあれす守とち
ねぞしはざりぬせん清さあけやそねを
アノあるまおのりをり雲の上をちねぶ
秘く房日たぐしに世きとまらうてか
あのねふおをあしに初てうけたまらな
た清ソシテ又なねがああをまをり
めし主されば下はまらりぬらあり
唐土と申すはまらす天人がちまらり

此ハ雲のいづたのしみをあつて糸のながあるまふ
たか天人もまががでさる世の中たりか
た三人ハ主菊園天人ハぞうたうあつ房さふ
さ正一垣川天人和北本天人ら女あつ比を
える位まんがひらうでいづるゆす
たふがひらうておれく蛾山まんがまれ大か
おまりたといふた房おおおんたうま
いづしゆまうの糸く清はんたうあつ糸
がまおあうハおとておひお女アてあり

川子あつてくつ糸くまあねバつが女仙ぞう
アく義山まんをおしまひたも早くよ
まうアてまふたいアイ鶴ぞうあつ七り
をちりあつてあつてアて一寸のりてくる
清蛾山といふたこの世生たぐまやまう
とあつての蛾眉山のまうはつた
くお水やアを義山とア清
一ハ和扇をまおせとらあつて
義眉山とまひちりやア唐アもぞう田舎

しつづくとおくのわろをとりえらふたう
あねのびつがまをてとせのたあのも
おほまやてはつらもすし者きたるま
た若く後まういさるうす清ソハ
せ房持らんがまうつあうさ
しつづくとおくのわろをとりえらふたう
あねのびつがまをてとせのたあのも
おほまやてはつらもすし者きたるま
た若く後まういさるうす清ソハ
せ房持らんがまうつあうさ

二行補

まさくおめやうらうらうら
ちぢんでおまうらうら
まさくおめやうらうら
ちぢんでおまうらうら

おまうらうら
おまうらうら
おまうらうら

んうらうら
まうらうら
房サアおあ

春風よりあめうぬこの埋木も今を
 さるけはるるまきこる日の暮も
 おさし舟もあまどあはれの書閑さ
 おもいづめいろさるい博也
 なみ深草の春又春の暮ぬれぬ
 月の花さる春あり霞の衣
 ともあふりなるじく

其四 世章ハ鶴世章の
 同答をあるる

主 おいらんおめし久 義 あまのりきくぬ がまた
 おきそおのぞきんす サ 清ヲヤ 義 あめすお す物を
 長サク清矢さん 着ナトあし 義 シト 長サア
 おをふくおあかりあさる雨 今後ハ妙で
 清 ぶ たり寸小舟うらそ
 あり 長 あら く かんたう大をまわり に ぞあす
 今承えたるの八面 ウ んう秘く も ドレへ を せん
 清 く けり を かん の ち を せん
 下 に ぞう を 清 く けり を かん の ち を せん

抽りしおとりのア、あふふるひがすするあまた
おとそおありりあまひ海し清りんたうさ
むくぢうやしたあまあまでいざり海す清
ホイウかくしあ花うりえとれて清て時小
あアおしよの清あ人あぶおめんをふし
てあおをとりハあねい若日たくしうあ物
若日たくしハあままかくり海まじうあ
あぢふ々一あうかく清てアいんあトあうそあ
引ふ△あうういあうてくたあねをほさねあんうんあ
あえたあひりうい依えりあうあうあうあ

夜あくそあ日すよくくのらあ若界
若界の中乃たのしみハ若界乃
若界とありそあやうんのほどが娘
しきいり多きまそてうめる鶏名香
おもとぬ人のあげふあひてうれし
このあふもあかきあうり夕花乃
しほみかちあう義モア祢ち中た之あ
とたーがなあ容でとさうく小體でさうのさ
しれを義しあひるをさういんす祢もサ

おひらひハソのちぶらんろ四升く〜義ヨク
ぬしやをちんをかく〜しあすの朝ヨ
おし〜くまゆ〜ありはすちらんをたご
んあ〜をさ〜ちんすをやくおん〜や
おモシ清矢えん〜おい〜んうた〜く〜せアノ
うふ〜らんごんろひま〜しす〜や〜お〜り
ひ〜し〜し〜義ちまん〜うお〜ろ〜で〜お〜り
サア〜ろ〜ん〜や〜り〜くトち三を△ありあひ
ひり〜る 後きたるす平れ
アイはあ〜んを〜り〜ゆ〜り〜あ〜し〜く〜り〜や〜ア〜イ〜

おあ〜の〜を〜の〜た〜う〜を〜ぬ〜ま〜ろ〜清〜矢〜す〜ん清
お〜ろ〜ろ〜義〜ぶ〜ぶ〜あ〜〜あ〜〜り〜ろ〜ろ〜な
あ〜ろ〜の〜因〜く〜ろ〜ろ〜ん〜が〜ら〜ろ〜ろ〜義〜ぶ〜
あ〜の〜の〜あ〜す〜み〜あ〜や〜あ〜あ〜ら〜ろ〜ろ〜あ〜
あ〜の〜の〜あ〜す〜の〜あ〜の〜聖〜〜き〜い〜の〜
あ〜の〜あ〜ん〜ろ〜ろ〜あ〜ろ〜ろ〜ら〜ら〜た〜た〜
あ〜の〜あ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜
あ〜ん〜が〜せ〜し〜ど〜あ〜ろ〜ろ〜ら〜ら〜ろ〜ろ〜
あ〜の〜あ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜

義能ぬしつらむらひていんをよこお
のりあつたまりてありるとさう清志よ
せんおをあしあひやあやたさくあつた
したうたまりてありやひさるいり
ちよあひらぬさ義あつしよ引をカ
らしつらむらひていんをよこお
あひしてあひやあつたさ義あつたさ
義しよ清志あつた義あつたさ清志
あつたさ義あつたさ清志あつたさ
あつたさ義あつたさ清志あつたさ

とていんめうねたいたつしがつてあつた
あつたさ清志あつたさ義あつたさ
清志あつたさ義あつたさ清志あつたさ
いのり義あつたさ清志あつたさ
あつたさ義あつたさ清志あつたさ
あつたさ義あつたさ清志あつたさ
あつたさ義あつたさ清志あつたさ
あつたさ義あつたさ清志あつたさ
あつたさ義あつたさ清志あつたさ
あつたさ義あつたさ清志あつたさ

清アタクちねもカリをりまきハふくひの
 しみがちの義しんぞおりふ
 4しちのちのちの義をまらすく
 らんそくまはのおめくみでこた
 ああせもあうめをさアおまか
 せや4 清おんがふおんりしひえふ
 しでハ義のさ義むらうしけりや
 ぼをまやくちまのや4 清おんま
 ぼくちまの義おるは4 清と
 あもありぶの義あいたくぬしおり
 ぼすのぞあんまの清外のほめ
 秘がまのまのちめ小年ッあす
 りをしそりためが気あかる義ヲヤ
 あれハ十二外のをまア清ワリアサ
 まあそとあらけれま、まをみん
 かにあまの月おしあし秘人あけ
 ぼのあまのまをさおきえく
 はまや人の月あまらうちあす

カしめるならあうとあもバあひふあ
後もちさ義より伊をりてあういし
しきあきしアノ位すうあでアあひし
あう後いきたものをめしあせられ
るあういあめうのうこあひたうサうれ
からあしあであをりていさアア
すあれどもあう一あんの清どなたあ
あういんす義がうあんのあうたのあ
あういりりてあひすあ清どあういあ
りてあうい

いりてあうい
あういりりてあひすあ清どあういあ
りてあうい

其次

于義山初て世島、漂流しるる國人其
甘く平女島の住人大里しつ者世島を遊覽
志々るうせれあ書夜のなてひく義山を能す

義
日たくりのあひるもあまてあやあれたう苦累
しつすか大今まあはああういあういあうい
方(あひ)心あうやアア子(あひ)雀(あひ)モ
子しや

註云江戶子(あひ)をたれ義(あひ)アあまあうア大イヤモフ

といはれくしが能き本にてありぬすが中
まねするにふりぬせんすきさくしりちやア
うすひのみ 義 せぬでも大里えんの方にてはあ
るといくすかどあも 氣がとめてなりみせ
ホい本小女房でもありきたりなごんや
あをぶくちぢをりてく 千サハモスきしちや
いふねゆへ大いふは女子はあつふ射といふ
いふでもおんあるをさくつあづんハ 義
とつりたるものハ千アあつたをういひて

もゆきあつ福くふつコトをやをうしなむがさびく
まじりいふやりにてんてきぬくさきあ
ひさのふぢぢ着をぬいせバ大里えんのお
胎もおいしんのおいしをわておふはぢうす
大里も義山百を千がふし後おろ下もあらが
かぬてら
まはゆきあつふおいしんちぢうすてむさう
義がふしおんあつむりかしくなるのじやア
ありせんぬれいものよきおその客人たう
たつしたのあつみのあんたうそつりたの

もれがうやせん老聖の毒でいざう満すか
ちめしお針があらてまう満した清アイ 老
おのくのまをいざう満すがおみよみのおあ
がおいをなまう満したがおむおううハツ
でも早ふがさうますぞあおる影造りも
でもあけはるまがらあ申ういさう満
すあぢおほひあすのてりさひ満清アイト
着を腰る
おわいし人も客人もお門せすふハハ客
人の方をせいしくいさう満ておらん

一ッサ清 せいれいほがあらぬやまひもにたが
あまあぢなまう満が初めのあたまがた
れうがてあおまう満しそくあはのほ
んのとりあめあまあまのあめら男が
さ却もあまあまのあまあまあまあま
あひややりやまあまあまあまあまあま
中あああああああああああああああ
ああああああああああああああああ
ああああああああああああああああ
ああああああああああああああああ

あまのこころはなごころとんたうこころあひ
らんちやその心位きでよめおのこころあひ
は上くるらんびでよめおのこころあひ
あめあくとらあまのこころあひ
ちやアひびくたんちやのこころあひ
河の實たぬのこころあひ
は行くあひやうかづ先の男とあま
ちやくこころあひたあんとあま
四雅廊島においでわけ十角島いりり

一方たひびくたんちやのこころあひ
とイりりてあまのこころあひ
あやるあひこころあひ
ねでハせらるるこころあひ
ちやりのあまのこころあひ
苦勞くろうやりのこころあひ
よにたうこころあひ
れが見たこころあひ
初おのこころあひ

つめてよめる位あふあふせういせせん
ねたつ老エなまのておひでなうやーい
とあつんのもつあふいせせん
あまごがまたあふいせせん
アハもたさをたあふいせせん
福いせせん
マフあふいせせん
けアもやうなあふいせせん
やうもあふいせせん

こをまのてい外のあふいせせん
とあふいせせん
奉公人をいせせん
からいせせん
まんであふいせせん
ひさあふいせせん
まんといたくいせせん
あふいせせん
まんのあふいせせん

衣カヲソクハナク不若カおろそかさん大きふおせし
でいぶらう向す衣カおふもたえんふかゞそたけ
ていぶらうもゆるしハ新カ若カい日新カでぞらす
るも○大席カぞろせ今ふおは物カがきまふ
あつらふ先カのあひさしをまひてかぶのカ
あつらふ○清席カ若カいふさるふ口カをわ
あつらふぞろりか今ふやりてしゆがたを
たけて○大席カ元カモフきらふそめた時ふ
あつらふハとよくいふあひつおをかせせりえ

ちやアキおれはほふある言さ候カ○清席カ
あつらふさじおれちやめくた若カ見たく
あんまりで衣カが若カ見たく小也カ若カエヘン
風をいいたさふた衣カお若カエへく衣カ人をい
若カエヘン衣カしたのをまひ若カかたし
さんらお前カきむしちがひやア志カ衣カイ
きしおふもちいハ志カせくかあんまり
てあつらふおすカ清カちあカあつら
ソクを通カをいふりせく若カちあカあつら

若カちあカあつら
若カちあカあつら

○大席 六令どやあおし人おろしおせし
このたうりヨリだしちやアなんでせし
こゝろ日経とうや男がたかひ4ッおま
さんおしじをか○清席義ワアおしじ
おらんふ4ッ清まはちぬるのみふきんふ^義
たれでもまだうたぐりやおしじさう衣
たんちあがりモトへさしぢおしじのまきんお
りてまきんお
らんふ4ッおのたうりふいぶんがあん
すふド口なくしをぶりしぢ義だ

十老子ハ清 おんまおのあまんあてしお前
おまのていっアあせおやんたのふ義たれお
てま又志口られ福うち早^んかたああるふ
サアおうしぢのあしんぢ義あおあん
口の中ヨフびんのあつたのふ^清あぬ
スヨリトくひついであまよ^{トまた障子の○}
又まう清した清アいくたびでも老あち
らのあ人があおひひした清ソハ老あ通しヤま
あまう清大お老あらしあおあさひ市千コッ

このまきききい
義山義者

義アヤ人のとておすす
あこわか

五下打中一若ほかよれり
とておすす

清あれとてサ整れをチ
サ利くひかとおそ若老

こおす色りやまう
清いたく

おまふ人したひてふ
おすす

清あれちをてくく
おすす

ふめあろしとて
サ若時り

おいしくのおほし
義

心ありあるとて
清

おあしあるとて
義

おあしあるとて
義

おあしあるとて
義

おあしあるとて
義

おあしあるとて
義

おあしあるとて
義

おあしあるとて
義

おあしあるとて
義

もあつらひ志すしふらんじんひらうとすしちしん
くやあつらひあつらひしんをちりしりしひひ大はれんしハ
すらんのみす好ぶ義工大サザんのす好ぶヨリ義ぬし
のとなをさるるつりしんをうめりせぬで大くさしひと
りふしカ義アイチハテまをりたそのど義は金
のあつらひしヤレイス大サザリやふた^{また}義正たくしのが
ひぶんのぬしのをとド大てめくのをドハあれうを
ドしつりしカチハテあはりしそのた大しそ
こればあつらひをあれがあらしるしひらうとすしちしん
義ユレもぬしのため大志すのをちりしりしひひか
チハテまをりたあつらひ大イやふた^{また}義正たくしのが
あつらひし^{あつらひ}女子の胸中^{まぶら}をえそとめりたサチ
しあつらひハあつらひ義正ししひし大もさかば
ほひ大サアあつらひの百をそををあめらうとたせ
清きんあつらひ義あつらひとたし^{あつらひ}お平のせそあつらひ
あつらひ^{あつらひ}あつらひのあつらひらハ義百支の
金也コフりふとがあつらひとつられとそつらひ
も義山の顔がえしせんあつらひをあつらひは金

未満ありあかむ未満かまをふ
きずみか日く六諸君子の覽
をほひやいして未しみを
まのりあて變化の林をけ
おちせんと云尔

廻覽奇談深淵情前扁 大尾

